入選

## 小さな親切

神奈川県　堀川小学校　六年
倉成　美来

私が、夏休みに祖母と近所のファーストフード店に行ったときのことです。その日は、朝から晴れていましたが、私たちが買い物に行ったときは少し、雲行きが怪しくなってきていました。

「なんだか、雨がふりだしそうね。」

と、話しながら駐車場に車を停めました。

私は車の中で待つことになり、祖母が買いに行ってくれました。しばらくすると、フロントガラスに、ポタ、ポタ、と雨粒が落ちてきたと思ったその瞬間、ザーッと激しく音を立てて雨がふりだしました。

「大変、おばあちゃん傘もってないのに。」

と、私は心配になりましたが、車の中にも傘はありませんでした。まさかこのタイミングで雨がふってくるとは思っていなかったので、どうしようとあせりました。

何も思いつかないまま数分が過ぎたころ、お店の入り口から祖母が出てきました。祖母は、「まいったなぁ」という表情をして、急いでこちらに向かってこようとしました。

すると、お店から店員さんが傘を持って出てきました。その店員さんは、祖母に話しかけて傘をさし、二人でこちらに歩いてきました。店員さんは、祖母がぬれないように車まで送ってくれたのです。私は、祖母がぬれずにすんでホッとしたし、店員さんの心づかいに温かい気持ちになりました。帰りの車で祖母は、親切な店員さんのおかげでぬれないですんだ、とうれしそうでした。

私は、高学年になってから、将来のことを考えたとき、接客の仕事に少し興味を持っていました。今まで私が思っていた接客のイメージは、明るく元気にあいさつをしたり、テキパキと動いてお客さんを待たせないようにするイメージが強かったけれど、あの店員さんを見て、もっと大事なことを知った気がします。

接客の本質は、人と人とのつながりだと思いました。優しくて親切な店員さんがいるお店には、また行きたくなるものです。

私自身は、決められた業務をこなすことは得意ですが、視野を広げて物事を見たり、より人のためにと考えて行動することまではできていないと思います。

このできごとをきっかけに、日々の生活の中で人のために、自分は何ができるかを意識しながら過ごしていきたい、と思いました。